

例会記事

九月例会 昭和六十二年九月二十六日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、ドイツ人教師デーニッツ(解剖学)の持参した骨格標本

神谷敏郎

二、日本温泉史資料供覧

中村 昭

十月例会 昭和六十二年十月二十四日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、仏教医学の変遷

杉田暉道

二、(一)古代ギリヤ医学の原典研究

(二)ビデオ鑑賞

大槻真一郎

例会抄録

曲直瀬養安院の人々

——麻布天真寺に遺存する資料はかから——

小曾戸 洋

曲直瀬道三は近世日本における伝統医学の礎を築いた人物として高く評価される。その跡は、玄朔(今大路家)・正純(亨徳院家)・正琳(養安院家)の三大家系に分岐し、いずれも地位と名声ある子孫を輩出して幕末に至った。曲直瀬の学統はこの三大家系を主軸に江戸時代全期を通じて権勢を維持したのである。

今大路家ならびに亨徳院家については累代の墓碑が確認されており、それに関する報告もすでにある。ところが養安院家に関しては、従来書誌学関係において善本を多数収蔵したことから若干の知名はあるものの、まとまった研究をみない。

演者はこのたび、養安院玄理以下が葬られたという東京麻布の天真寺を調査した結果、種々の資料を得、従来知られていない事実も判明した。養安院家は江戸初期より幕末に至るまで歴代にわたり法印・法眼を輩出した名家で、その足跡は日本近世医学史上再評価されてしかるべきと考える。よってここに報告に及んだ。

一 麻布天真寺に残る墓碑と過去帳

天真寺は禅宗(臨済宗大徳寺派)京都紫野大徳寺末で、寛文元年(一六六一)豊島郡江戸麻布村の現在地(東京都港区南麻布三丁目一番十五号)に創建された。

(一) 墓碑

天真寺の墓地はごく最近区画整理されたらしく、無縁の墓石は墓地の辺縁に寄せられており、旧の位置にはない。調査の結果、同墓地内に養安院家の墓碑石を五基(①)~(⑤)、また今大路家の墓石一基(⑥)を確認した。

① 曲直瀬玄理墓石…「寛文七丁未年／法印有玄理／三月二十四日」。

② 曲直瀬正珍墓石…「享保十一丙午年／法印平菴正珍／十二月十三日」。

③ 曲直瀬正隆墓石…「嘉永元戊申年／法印礫翁正隆／六月二十四日」。

④ 曲直瀬正珪墓石…「法眼雲翁正珪／延享五年」。両側面・背面に計三七一文字の墓誌が刻されている。撰者は服部南郭。

⑤ 曲直瀬正隆墓銘碑…上部に「青庵先生之墓」という篆額があり、五百余字の銘文が謹厳な隸書体をもって刻される。撰文は清水稜洲、揮毫は戸川安清にかかるといわれる。

⑥ 今大路玄寅墓石…「貞享三丙寅歲／前典藥頭子恭玄寅」。

(二) 過去帳

住職の好意によって過去帳の写しを被見することができた。これには寛文七年(一六六七)より明治十四年(一八八一)に至る養安院家十九名の法名と没年月日が記されてある。

(三) 沈水香

さらに住職の好意により、桐箱に収められた沈水香を被見した。添付文書に「霸王府御薬用沈水／曲直瀬養安院殿賜之……」

とあり、安政五年正貞の没後に寺に献納されたらしい。

二 曲直瀬養安院累代の伝

前掲の諸資料、『寛政重修諸家譜』の記載、その他管見に入つた種々の資料を参考に、次の人々の伝を述べた。

(一) 曲直瀬正琳(一五六五~一六一一)

(二) 曲直瀬正円(一五八八~一六一六)

(三) 曲直瀬玄理(一六〇四~一六六七)

(四) 曲直瀬正珍(一六四二~一七二六)

(五) 曲直瀬正珪(一六八六~一七四八)

(六) 曲直瀬正山(一七一九~一八〇一)

(七) 曲直瀬正雄(一七五〇~一八二七)

(八) 曲直瀬正隆(一七七二~一八四八)

(九) 曲直瀬正貞(一八五八)

(十) 曲直瀬正健(一八六五)

(十一) 附・今大路玄寅(一六六六~一六八六)

三 養安院家の蔵書について

曲直瀬養安院が蔵書に富んでいたことは書誌学関係で知られる。明治十八年、森立之は『経籍訪古志』に次のように跋している。「府下医中の蔵書家は化政の間(一八〇四~二九)を以て盛となす。而して其の最たる者は二劉と曲直瀬となす。これに次ぐ者、小島宝素・久志本緑漪・伊沢蘭軒……」。ここにいう曲直瀬はまさに養安院家にはかならない。二劉とは多紀本家元胤と分家元堅のことである。すなわち養安院家は小島・久志本・伊沢らを凌ぎ、江戸医学館に匹敵する蔵書を誇っていたのである。養安院

家の蔵書室は当時懐仙閣もしくは懐仙楼と称していた。これら養安院家の蔵書はすでに四散してしまったが、『懐仙楼書目』（内閣文庫所蔵）、『経籍訪古志』所録本、さらに、内閣文庫・宮内庁書陵部・台湾故宮博物院図書館・北京大学図書館などの養安院旧蔵書本を概観し、その質量と流出の経緯の一斑を述べた。

詳細は『漢方の臨床』曲直瀬道三生誕四八〇年記念特集号（一九八七年十二月号）に発表予定である。

（昭和六十二年七月例会）

日本温泉史資料供覧

中村 昭

江戸時代

香川修徳『一本堂葉選統編』

原 双桂『温泉小言』

和気惟亭『微瘡約言』坤

『温泉奇効記』光泉寺

『入湯案内記』草津温泉

『摂津名所図会』有馬郡

明治時代

『豆州修善寺温泉場全図』

浅田栗園『温泉余録』

亀谷 行『函山紀勝』

瓜生政和『教訓洗湯論』

佐藤桜哉『小仙郷』

『諸国温泉一覽』

『上州伊香保鉱泉場名所全図』

西宮藤毅『秋田県温泉のしるべ』

北山居士『信濃温泉誌』

『信濃温泉鹿教湯案内』

篠田仙果『上州伊香保鉱泉図会』

大内青巒『熱海独案内』

有田正誠『宮城県温泉小誌』下

『和倉温泉真景図』附試験報告』

竹窩道人『箱根温泉誌』

大正時代

進藤霸城『塩原名勝記』

『伊豆熱海温泉場全景』二版、三版

成川房幸『道後温泉誌』

鐵道院『温泉案内』

酒井谷平『温泉と疾病』

昭和（戦前）

石川成章『本邦温泉論考』

西川義方『温泉と健康』

藤浪剛一『東西沐浴史話』

鉄道省『温泉案内』昭和三年、十一年

『伊東温泉場全図』

『別府温泉案内図』